



発行所
東温市田窪2135
愛媛県立
しげのぶ特別支援学校
印刷所
株式会社 松栄印刷所

知行合一

「知りたい 伝えたい やってみたい」



校長 光宗昌哉

今年度赴任いたしました光宗昌哉と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私にとって、しげのぶ特別支援学校は、本校がまだ「第一養護学校」だった平成初期の頃、特別支援学校教員として第一歩を踏み出した、思い出深い学校です。新規採用の頃に出会った、当時の生徒の言葉「電動は 僕の手足だ 弟だ」が今も本館に飾られているのを目にし、懐かしさとともに初心を思い起こしながら、日々校内を歩いています。

さて、平成初期にはまだ存在しなかった生成AIをはじめとする情報技術の進歩により、知識を得ることが容易になり、子どもたちの学習環境は大きく広がりました。その一方で、実際に体験し「やってみる」との大切さも、あらためて見直されていると感じています。生成AIもインターネットもなかった明治時代、「学問のすゝめ」と旧一万円札で知られる福沢諭吉は、「学問とは難解な知識を身に付けることではなく、その人の生活や生き方を支えるものである」と説きました。知ったこと、学んだことが日々の暮らしの中で生かされてこそ意味をもつという考え方は、教育にも大切なことだと思

います。

令和の特別支援教育において、学びの形は一人一人異なります。すぐには言葉にならない思いの表出、何度も挑戦する姿、小さな一歩の積み重ね……それら一つ一つが子どもたちにとってのかけがえのない学びの形です。成果の大きさよりも、子どもたちが「知りたい」と感じ、「伝えたい」と工夫し、「やってみよう」と挑戦しようとするその過程を何より大切にしたいと考えています。そして、本校が育成を目指す資質・能力「知ろうとする力、伝えようとする力、やってみようとする力」には、子どもたちが自分なりの方法で学びに向かい、分かったことを他者と共有し、その学びを行動によって確かめながら、社会の中で自分らしく充実した生活を送ってほしいという願いを込めています。

本校が、子どもたちにとって安心して挑戦できる場であり、また保護者の皆様とともに成長の喜びを分かち合える学校であり続けられるよう、教職員一同、力を尽くしてまいります。どうか、本校の教育活動への御理解と御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

部通信

新年度を迎えて

小学部主事 田中 桜子

令和八年度、小学部は九名の一年生を迎え、児童四十九名でスタートしました。小学部は特に療育センターでの手術のため短期での転入生も多く、地域の小学校や訪問教育の友達との交流学習もあり、様々な形で友達と関わる機会があります。様々な出会いを大切にしながら、多くの経験を積んでほしいと思います。また、本校の教育の柱の一つでもある自立活動の時間が始まります。自立活動の時間は機能訓練とは違い、授業に向かう姿勢や自分の思いの伝え方、人との関わり方など、学校生活や日常生活を主体的に送る力を付けるために、教師と児童が共に取り組んでいくことを大切にしています。そして、身に付けた力を学校生活や日常生活の中で生かしていけるよう、日々の学習や行事に取り組んでいきたいと思っています。児童一人一人の持つ力や可能性が十分に発揮できるよう、そして充実した学校生活となるよう、教職員と保護者、地域、関係機関の皆様と連携を取り合いながら、児童の成長をサポートしていきたいと思っています。どうぞよろしく申し上げます。

中学部主事 山上 千津

令和八年度、中学部は十一名の新生を迎え、二年生六名、三年生五名、合計二十二名でスタートしました。長寿命化工事を無事に終え、教室が第二教棟と第三教棟で近くなり、中学

部としてよりまとまった学校生活が送れるようになりました。各教室から、毎日笑顔があふれ、楽しそうな声が響いてきます。「おはよう。」と挨拶すると、みんな、それぞれの方法で「おはよう。」と挨拶をしてくれそうです。昨年度より、基本的な感染対策を実施しながら、中学部みんなで取り組む活動を増やしています。学級、グループ、学年、学部……と様々な学習集団の中で、友達同士の関わりを大切にしながら、今年も様々な学習活動に取り組もうと考えています。

生徒たちの「知りたい・伝えたい・やってみたい」という気持ちを大切に、心が動く学習ができるよう、日々の教育活動に全力で取り組んでまいります。そして安心・安全に学校生活を送れるよう、教員同士の連携をしっかりと行います。そして保護者の皆様と情報共有をしながら、生徒の気持ちに寄り添った支援・指導を行ってまいります。今年度も皆様の御協力をお願い申し上げます。

高等部主事 宇都宮稔子

令和八年度、高等部は十八名の新生を迎え、生徒四十二名でスタートしました。

高等部では、三年間の学びをより充実させるために、行事の精選を行いました。特に三年生の秋は、進学や就職に向けた取組が本格的になる大切な時期です。試験への準備や本番、必要に応じて福祉サービス事業所での実習など、卒業後の生活につながる取組を優先できるようにしました。そのため、今年度の入学生から、修学旅行を二年生で実施する形に変更しています。保護者の方にとっては、普段あまり触れる機会がないためご存じでない方も多いのですが、教育課程は入学時に三年分をまとめてつくる決まりになっています。途中で大きく変えるのではなく、計画的に学びを積み重ねていくことになっています。学校行事も少しずつ姿

を変えながら、より良い学びにつながるように工夫していきます。高等部では、入学後から卒業後の生活を話題にし、本人、保護者の皆様と相談しながらより具体的に考えていきます。日々の取組の中で見えてくる課題もありますが、そのたびに学びを深めながら、より良い環境づくりを進めていきます。どうぞよろしく申し上げます。

訪問教育主事 梶谷 由佳

令和八年度訪問教育（肢体不自由部門）は、小学部四名、中学部四名、高等部三名の計十一名でスタートしました。今年度は、新たに二名の教員を迎え、新しい体制で取り組んでまいります。

訪問教育では、ご家庭や病院に教員が伺い、週三回（各二時間）の授業を行っています。しげのぶ特別支援学校に移管して二年目になり、子どもたちも少しずつ教師や学校に慣れてきたところですが、

訪問教育では、学校に来て通学生と一緒に授業や行事に参加する機会も大切にしています。昨年度の運動会は、訪問教育単独で行いましたが、今年度の運動会は、本校の学部、学年と合同で実施しました。また、昨年度に引き続き、本校学習参加は、交流クラスやグループと一緒に活動する授業を三回計画しています。加えて、オンラインや手紙による交流も行っていきたいと考えています。

運動会や交流学習参加、修学旅行、学校祭など、本校の友達と出会い、触れ合う機会を大切にしながら、それぞれの授業においても、子どもたちの「わくわく」「ドキドキ」「やってみたい」「やってみよう！」という気持ちを大いに引き出せるよう努めてまいります。

今年度もどうぞよろしく申し上げます。